

新・暮らし方

私たちの暮らし方も、自分で自分のグランドデザインを描く時代になってきた。それぞれの価値観で多様なライフスタイルや多彩な個性を持つ、新しい暮らし手が輝き始めている。

自分らしい暮らし方の時代へ _____

かつて物をそろえることで生活が豊かになっていった時代があった。そして、過剰にモノが氾濫する時代が訪れても、自分らしい生き方や暮らし方に思い至ることなく、さらにモノを求め続ける流れが続いていた。しかし、時代は大きな転換期を迎えようとしている。

モノを購入することによって、自己実現を満たしていた時代から、自分の流儀で生きることに見出し、個々のライフスタイルやその時々ライフステージに見合った住まい方や暮らし方を追求するに至った今日、人々の描く夢は多様である。

一人ひとりに、自分たちはこのような暮らし方、このような時間の使い方をしたいという独自のシナリオがあり、それが新しい価値観を形成していく。すでにモノの所有によって得られる満足は過去のものとなり、私は自分の暮らし方をこのようにデザインしているとか、暮らし方をこう体感しているという追求こそが、大きな価値観になってきている。言い換えれば、自分らしい暮らし方や、自分流儀の生き方を貫くということは、自分のセンスでコトを編集し、その編集行為の中でモノがセレクトされたりして、自分のスタイルを作っていくことにほかならない。そして、自分らしい価値観は何によって構成されるか。その大きな要素の事例が、生活の大部分を占めるインテリアである、この領域におけるその人らしい表現や演出、センスこそが、やがては住まいの空間を埋め、そしてその空間をカバーするハコとしての家づくりに至るのである。要約すれば、たった一個の気に入ったカップで朝のひと時を薫り高いコーヒーからスタートさせるというイメージや、読書をしたり、思索に耽けるこの椅子ほどぴったりくるものはないなどというこだわりが、生活の価値観であり、それがライフスタイルの起点なのである。

要は工業社会を経て情報社会となった今、私たちは自分の生活のクオリティについて、自らがプロデュースする時代を迎えている。

例えば一番身近な住まいのインテリアも、一人ひとりが暮らし方のデザイナーとして、もっとクリエイティブに思おう。それぞれに、その扉を開けるときの訪れている。

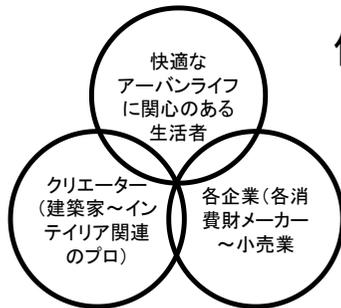


例えば

住

自然と調和するこれからの都市生活
エコでセンシヤスな暮らし方

TOKYO URBAN LIFEのサブテーマの一つにエコがある。私たちの身近にはショッピングバッグやマイ箸の持参などから、住まいへの太陽光の利用など数多くのエコ活動が見られる。自作をする楽しさやエコ活動に貢献している充実感もまた良いものだ。まず、自分の出来ることから始めてみよう。



生活者(暮らして)、それをサポートするクリエイター、欲しいモノを作り出す企業が集い、さまざまな手法による情報交流を通じて「暮らし方産業」を創出し、生活者本位のマーケットを充実させていきます。

例えば

エ

コ

LDKからの解放

家電製品や自動車、そして

スーパーブランドの衣服や雑貨など、私たちは世界でも最高水準の、パーツとしてのモノに囲まれている。しかし、暮らし方、住まい方はどうだろう。かつてウサギ小屋と呼ばれたころ、LDKという表示で住居のステイタスを競った時代があった。しかし、もう転換が始まっている。例えば、リビングを広くして家族が集う空間を最優先させ、部屋数に惑わされないなど、自分らしい暮らし方がテーマなのである。一人ひとりのライフスタイルのトータルな充実こそ、豊かさの源泉といえる。